

下向山遺跡・清水井遺跡

一弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落の様相一

下向山遺跡と清水井遺跡は高谷に所在します。両遺跡が所在する高谷を含めた平岡地区には数多くの遺跡がありますが、その多くは弥生時代後期～古墳時代前期（今から約2,000年前～1,700年前）にかけて急激に増加してきます。

平岡公民館から南東へ約1.5 kmに所在する両遺跡も弥生時代後期～古墳時代前期を中心とする遺跡になります。両遺跡は標高40～80mの台地上に立地しています。両遺跡が立地する台地は、県道や土砂採取によって現在は東西に分断されていますが、もともとは西側の小櫃川の低地に突き出した地続きの東西に細長い台地でした。台地中央から東側に位置する下向山遺跡は住居を中心とする「居住域」となるのに対し、台地の西側先端部に位置する清水井遺跡はお墓を中心とする「墓域」となります。台地中央の標高が高い部分を居住域、台地先端の標高が低く低地を見渡せる部分を墓域として台地を使い分けて集落が営まれていたのかもしれませんが。

下向山遺跡 一弥生時代後期～古墳時代前期の大集落一

下向山遺跡は、標高60～80mの台地中央から東側に立地しています。土砂採取に伴い、昭和63年～平成4年、平成15年にかけて9回の発掘調査が行われた結果、弥生時代後期～古墳時代前期の住居が150軒以上も発見され、大規模な集落であることがわかりました。

本調査が実施された標高80m程の台地平坦面からは73軒の住居が発見されました。住居の形や出土した遺物から、集落が営まれた時期は、「弥生時代後期後半（Ⅰ期）」、「弥生時代後期末～古墳時代前期への過渡期（Ⅱ期）」、「古墳時代前期前半（Ⅲ期）」の3時期に区分されます。Ⅰ期は台地中央部の平坦面に住居が集中するのに対し、Ⅱ、Ⅲ期は台地の南西～北東方向に列状をなして配置される傾向にあります。弥生時代後期～古墳時代前期にかけての集落の変遷を見ることができる重要な遺跡です。

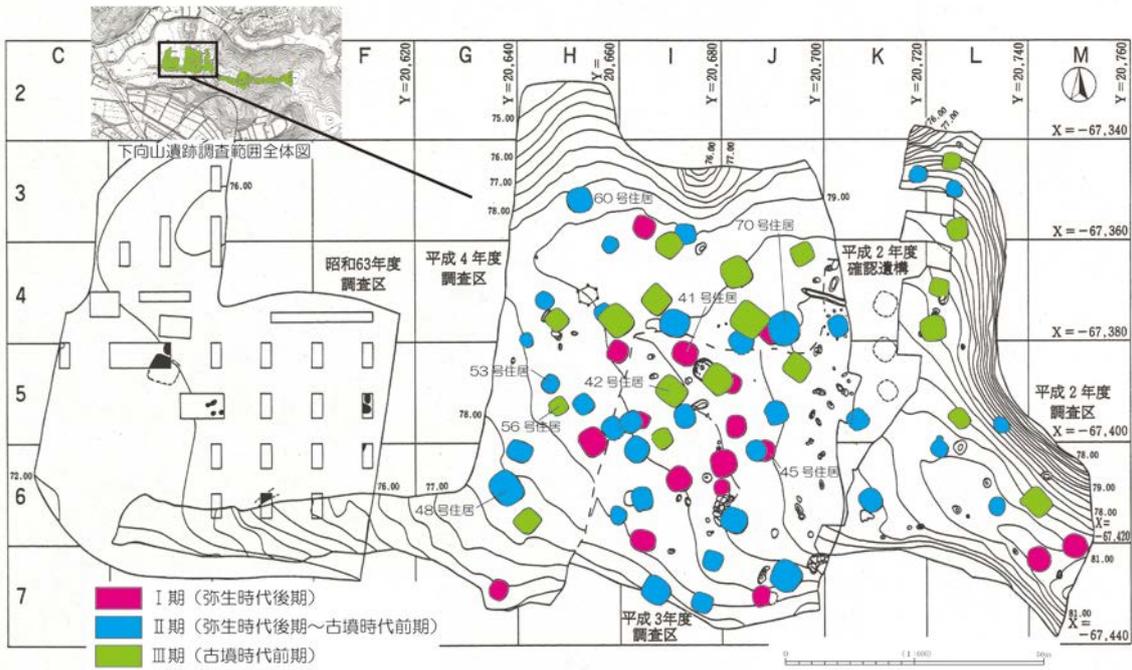
清水井遺跡 一弥生時代後期～古墳時代前期にかけてのお墓一

清水井遺跡は、標高37～40mの台地先端部に立地しています。西側の眼下には小櫃川の低地が広がっています。墓地造成に伴い、平成2年度に発掘調査が行われました。調査の結果、旧石器時代～奈良・平安時代にかけての遺構・遺物が発見されていますが、中心は弥生時代後期～古墳時代前期になります。

遺跡からは「ほうけいしゅうこうぼ方形周溝墓」と呼ばれる弥生時代後期のお墓が5基、「ほうふん方墳」と呼ばれる古墳時代前期のお墓が3基見つかっています。これらのお墓はよく似た形をしていますが、清水井遺跡では、盛土の有無や出土した遺物で時期を区分しています。弥生時代から古墳時代にかけてのお墓の移り変わりを見ることができる貴重な遺跡です。



下向山遺跡・清水井遺跡航空写真（手前が清水井遺跡、奥が下向山遺跡）



下向山遺跡本調査範囲（平成2～4年度）遺構配置図



清水井遺跡遺構配置図



下向山遺跡本調査範囲住居群



下向山遺跡火災を受けた住居



下向山遺跡住居の炉から出土した炉器台



下向山遺跡から出土した土器



清水井遺跡で発見された方形周溝状遺構



清水井遺跡から出土した土器